

ウイグルとハザクの女性の民族衣裳

木曾山 か ね

(昭和58年9月30日受理)

National Costume of Uighur and Hazak Women's style

Kane KISOYAMA

(Received September 30, 1983)

緒 言

世界の各国に独特な美しい民族衣裳を見ることができ
るが、その多くは冠婚葬祭に用いる衣服となり、日常服
として用いる処は少ない。

ソ連邦のウズベック共和国、中華人民共和国新疆ウイ
グル自治区のウイグル族とハザク族は、この世界の動向
の中で、外出着程度の衣服から平常服まで着用している
民族の一つである。その形は、エンパイヤスタイルの如
く簡素な形で、しかも一様である。丁度日本の和服のよ
うに素材は変わるが、小袖・羽織姿など一様であるのに
似ている。その布地が独特な、絹朱子の美しい緋文様で、
ソ連邦のウズベック共和国の都市サマルカンドの民族博
物館に、花絹という名称で飾られており、中国の新疆ウ
イグル自治区では、汗朱子（ハン・アトラス）といい、
また新疆博物館の清時代の布として、現代の布程色彩に
鮮かさはないが、トルファン・Hotien silk (図1)とし
て展示されている緋地が一つの傾向を示している。

1975年、ソ連邦ウズベック共和国の都市サマルカンド、
タシケントのシャヒンダや回教寺院、市場とか、ヒヴ
ア、ブハラなどの都市で、鮮かで美しい緋の絹朱子のド
レスを着用した婦人達（柄の傾向は同じでも、色の組み
合わせも細かな柄の相違はある）を見ることができた。

1981年、中華人民共和国の西域、新疆ウイグル自治区
のトルファン、ウルムチなどにおいても、同様の婦人達
に行き合うことができた。

このように居住する国が異なり、離れていても、同じ
民族衣裳を装っていることに関心を覚え、資料の收拾も
考えた。さらに1983年8月、再度同地を訪れたが、急速

にこの民族服を着用している婦人の数が減少している傾
向がみられ、この民族服もいつか冠婚葬祭の衣服となっ
て、日常服から消えることも考えられ、現状を把握して
考察しておきたいと思うので、報告するものである。

研究の方法

ソ連邦、ウズベック共和国、タシケント、サマルカン
ド、ヒヴア、ブハラで、1975年8月に撮影した71人の同
系統の民族服、1981年8月中華人民共和国新疆ウイグル
自治区において、同様41人の民族服を撮ることを得、さ
らに1983年に16人の資料を得て、この計139人の女性の
衣服の型態の特徴と色彩使用状況について分析し、同種
の衣服の実物が得られたので、これについて裁断、構成
を考察した。

1. National Costume 着用の範囲

ソ連邦側のウズベック共和国のウイグル族、ハザク族
の人口はつまびらかでないが、中国新疆ウイグル自治区
の人口は548万人、カザフ族は7,500人といわれている。
図3の地図の◎印の都市が、両国の取材地である。民族
服の系譜を歴史的にたどることは至難なことであるが、
次に述べる両域の状況は、服装史の上においてもきわめ
て重要であると考ええる。

8世紀の中頃突厥を滅ぼしたトルコ系のウイグル族は、
外モンゴルオルゴン河畔を拠点に、一大遊牧国家を建て
た。唐末の9世紀の中頃になると、ウイグル王国は崩壊
し、その一部は中国の西域高昌附近に移住し、イラン系
の諸民族を追放して、トルコ人の安住地トルキスタンに
出現した。このトルキスタンを根拠地とするようになると、
ソグド商人を通じて、しきりに西方文化を摂取融合
してウイグル文化をつくった。旧来の胡服を捨てて、美

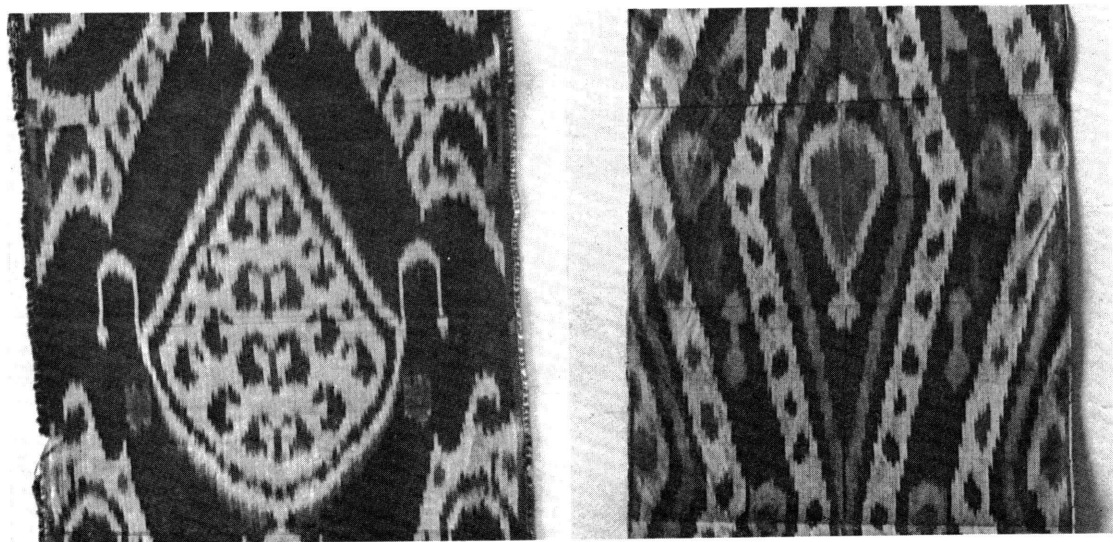


図1 中国・清朝 Hotiensilk



図2 サマルカンドにおけるウイグルの人々

しい縞文様入りの折衿のコートを着こんだ官史などが現われた。文化程度の低いモンゴル人はウイグル人を重要視し、中央アジアがチャガタイ汗国に統一された後も、ウイグル人だけが旧地に安住することを許されたという。

18世紀に入ると、清はタリム盆地を征服し、その支配下の住民はウイグル人が多かった。

1917年西トルキスタンは帝政ロシアの保護下にあったトルコ系の諸民族が独立して、ウズベク、カザック、トルコマン、タヂック、キリギスの五つの共和国ができた。

1949年東トルキスタンの新疆省は、革命後ウイグル自治区として新中国に所属している。

以上の歴史的推移だけでは、Hotien silk がいつから用いられたか、断定はできない。

1975年、サマルカンドの民族博物館において、当館に飾られていた Hotien silk の解説に「この花網は、王が織師に、夕映えの池の面の七色に輝く美しさを織物に作るようにと命じられてできた、といわれている。そしてこの絹織物は、長い間王者や貴族の着物として用いられた」とある。

2. 調査の結果と考察

A. 調査人員の割合

調査人員は、図4に示すように、1975、1981、1983年

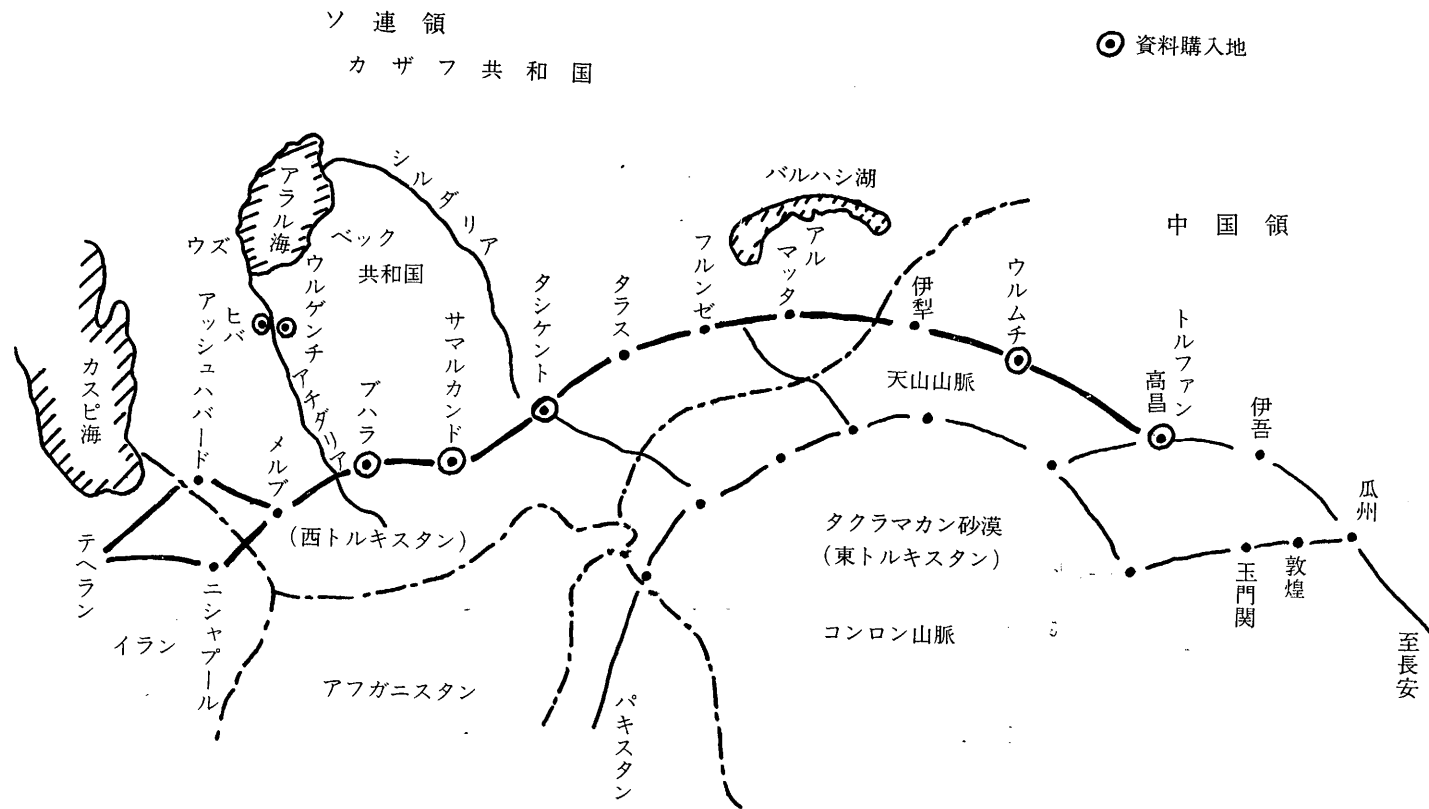


図3 研究資料となったシルクロード
タシケント、サマルカンド、ブハラ、ヒバ——ウズベック共和国
アルマワタ——カザフ共和国
フルンゼ——キリギス共和国

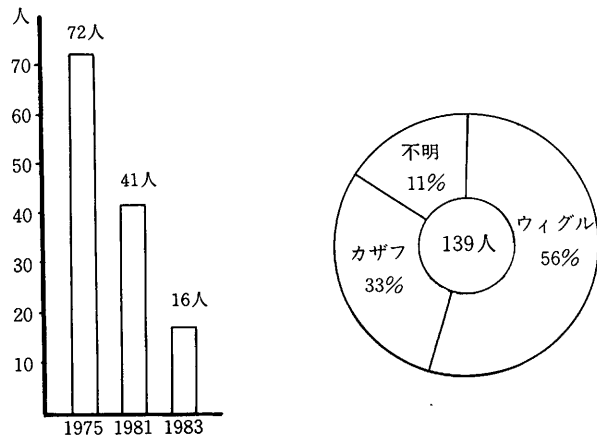


図4 調査年度と人員

ウイグルとカザフ族の割合

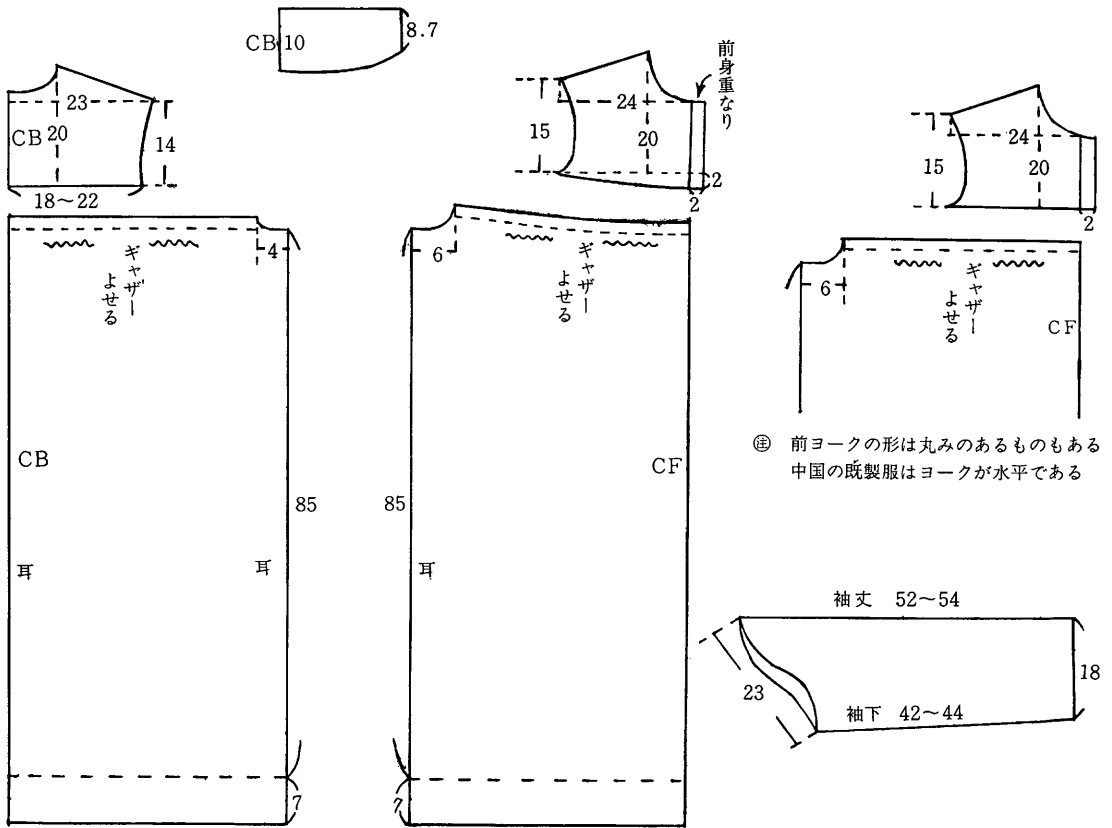


図5 既製品のドレスを採寸した図(2枚を参考とする)

に亘り、地域は図3に示す通り○印の都市である。

撮影することのできた員数は139人であったが、ウイグルと明確に判明したのは図4に示すように約56.1%、カザフと考えられるのは33%で、11%は両方の何れかを

決められず不明である。この分類はマスク、髪、帽子の形などで分類した。

B. 衣裳のデザイン

形態はまことに単純な、胸高なヨークつきのワンピース





衿 な し		折 衿	
丸 衿 ぐ り	V ネ ッ ク	’ スクエアカラー	ノッチドカラー
			

図 6 衿の形や衿割の種類

表 1 汗 朱 子 の 諸 元

項目 購入地	布 幅	地 質	適 要
ソ 連	66 cm	絹 朱 子	切り売りする 布地が厚い
	80 cm	平織化繊	切り売りする 目があらい
中 国	48.5cm	絹 朱 子	1 反の長さ750cm 手織りである

表 2 汗朱子に用いられる色彩

No.	色 彩							
	黒	白	橙	赤	緑	黄	紫	
1	○	○						既婚者が用う
2	○	○	○					
3	○	○	○	○	○			
4	○	○	○	○	○	○		
5	○	○	○	○	○	○	○	
6	○	○		○				

スで、共布地や赤朱子のズボンと組み合わせて用いたり、ワンピースのみで用いたり様々である（図 2 参照）。そのドレスの形態の裁断図を示すと、次の図 5 のようである。ソ連で布地を購入しようとしたら、切売りをしてくれたので欲しいだけの布を購入したが、中国では一反売

りであった。長さは 750 cm あり、布幅は 48.5 cm である。この布幅と用尺で、長袖の胸高のヨークつきワンピース・ドレスが丁度裁断できる。スカート 4 枚接ぎ、袖 1 幅で 2 丈という割合である。衿の形や衿割の種類は図 6 のようである。



図7 汗朱子の衿なしドレス



図8 花帽 上 ウイグルのスタイル 下 ハザクのスタイル



表3 汗朱子・花板・無地などの割合

	調 査 時 期	汗朱子	花 柄	無 地	幾可文	その他	計
ソ連	1975年8月	52.6%	30.5%	16.6%			98.7% (71人)
中国	1981年8月	12.5%	52.5%	30.0%	2.5%	2.5%	100.0% (41人)
	1983年8月	18.7%	31.0%	50.0%			99.7% (16人)

C. 汗朱子と花柄, 無地

ソ連領サマルカンドの民族博物館では, 花絹と説明がつけられていたと先に述べたが, 組織は朱子織が主であるが, ソ連のデパートで化繊地の平織もみたので, 平常着によいものが作られているのかも知れない。布幅など表1に示した。汗朱子に用いられる色彩は様々で表2の如くで原色に近い鮮かな色彩を2色から7色位用いられているものである。

先に述べたが, 汗朱子は昔, 王や貴族のものとして貴んだと, ソ連側では説明されたが, 中国側ではそのようなこともなかった。貴いものとされた連頭眉の女性の汗朱子姿を図7にみる事ができる。

表3に示すように汗朱子, 花柄, その他の柄, 無地にせよ, ウイグルである, カザフであるとわかるのは, 布地が違っても同じカットのドレスであり, 帽子をかぶっていたりすることであるが, 1983年のトルファン, ウルムチにおいては, 汗朱子を着た人はたったの3人で, 花柄が5人, 無地を着た人は8人であった。

D. 花帽・ハザクスタイルとウイグルスタイル (Hazak style & Uighur style)

何色何柄のドレスでも, 帽子をかぶっていることでこれらの種族とわかる。図8のようにハザクは上部が平らで羽飾がつくこともある。ウイグルは4枚接ぎである。何れもビーズの刺繍などどここされて非常に美しく, 男も女もかぶる。1983年に気がついたことは, 男子は被っているが, 女子はマフラーで髪を被っている人が多いことである。

ま と め

花帽も独特であるが, 髪の結い方も独特で, 独身者は

20〜30本位の三つ編みをし, 既婚者は2本の長い三つ編みにして, その上に花帽を被る。気温が下がると, 朱子の美しいブルーやグリーンのベストを着る。冬でも汗朱子のドレスをズボンの上に着て, 一目でそれとわかるスタイルであった。

まとめてみると, ソ連邦を訪れたのが8年前であるから, 今訪れて比較しなくては何とも言えないことであるし, 滞在した日程も約倍であったから, ソ連邦の方が汗朱子を着た現地の人に多く行き合うことができたのかもしれないが, 中国のウルムチ, トルファンでは, 書籍と実物の花帽・ドレスを求めることができて, 考察を進めることができた。本年の現地トルファンにおいて, 明らかにウイグルの顔立ちと分っても, 中国風なブラウスとスカート姿で, われわれの世話をしてくれたホテルの女性が印象的であった。惜しいことであるが, 時代と共にこのように変わってゆくに違いないと考えざるを得ない。

研究の終りに, 汗朱子のことについて御助言下さった文化女子大学名誉教授小川安朗先生に感謝申し上げたい。

文 献

- 1) 中国人民美術出版社編：中国少数民族服飾ウイグル族, 美乃美(京郷), 1981, p. 44
- 2) 中国新疆對外貿易局：XihJIANG's FOREIGN TRADE National style silk clothing, 1981, p. 33
- 3) 中国新疆對外貿易局：新疆, 歌舞, 1981, p. 11
- 4) 中国出口商品交易会会刊：CHINESE XihJIANG ARTS & CRAFTS, UIGHUR STYLE, HAJAK STYLE, 1981, p. 23
- 5) ヴァリュエツアー：トルファン・シルクロードへのいざない, 1981, p. 52